I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（13社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、BIPROGY(注)、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK

(証券コード協議会銘柄コード順)

(注) 日本ユニシスが商号を変更した（2022年4月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	20
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	24
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	6
計		11	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は138頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは24名（所属先20社）である。（氏名等は139頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は137頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、69.1点（昨年度 67.6点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は14.1点（昨年度 15.3点）となった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が66%（昨年度64%）、説明会等が70%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが83%（昨年度同率）、ESG関連が61%（昨年度58%）、自主的な情報開示が72%（昨年度61%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全11項目のうち平均得点率が80%以上のものは、次の1項目となった（フェア・ディスクロージャーの中の1項目で、昨年度も同じ。）。
 - ・ 「外国人投資家向けのIR活動（海外IR・英文による情報提供）に努めていますか〔海外IR・英文による情報提供あり：満点〕」（平均得点率100%〔昨年度同率〕）

④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、40%台となり、昨年度に続き最も低かった。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 47% [昨年度 42%]) (得点率(評価点/配点(以下省略)): 10%台 1 社・20%台 5 社・30%台 2 社・60%台 1 社・70%台 3 社・90%台 1 社)

⑤ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなり、(a) (b) の平均得点率は共に 50%台と低い水準であった。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE 等)が、十分に説明されていますか」(平均得点率 59% [昨年度 57%]) (得点率: 20%台 3 社・30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 1 社・70%台 4 社・80%台 2 社・90%台 1 社)
- (b) 「資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 59% [昨年度 58%]) (得点率: 30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 1 社・80%台 1 社・90%台 1 社)
- (c) 「非財務情報(ESG 情報、統合報告書等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 63% [昨年度 58%]) (得点率: 20%台 1 社・40%台 2 社・50%台 3 社・60%台 1 社・70%台 5 社・90%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所(ディスクロージャー優良企業[6 回連続 14 回目]、総合評価点 91.9 点 [昨年度比 +3.3 点])

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 93%)、説明会等(85%)、フェア・ディスクロージャー(100%(同得点第 1 位))、ESG 関連(92%)、自主的情報開示(83%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となり、95%以上の得点率となった。これに関連して、経営トップの説明力が高く、特に、経営戦略、業界ビューの説明や数値目標の背景などの説明が有益であるなどの声が多く寄せられた。また、「IR 部門の機能」(2 項目)も共に、最も高い評価となった。特に、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」は、90%以上の得点率となり、昨年度に比べ 10 ポイント以上上昇した。これに関連して、事業説明会を評価する声が多く寄せられ、特にグローバル戦略に関する説明が有益とする声が多かった。また、IR 対応に関しては、IR のスタンスが安定している、質問に対するレスポンスが良いとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、事業別・顧客業種別・国別などの多角的な開示内容を評価する声があった。なお、買収を加速させている中でオーガニックとインオーガニックの区別を明確にすることを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」、「資本政策、株主還元策の開示」および「ESG に関する情報の開示」の 3 項目全てにおいて最も高い評価となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、事業としての ESG、会社運営上での ESG のそれぞれの方針が明確に説明されているとの声が多く寄せられた。また、非財務情報の開示として、統合報告書を評価する声が多く寄せられ、そのほかサステナビリティブック、ESG データブックを評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生、COVID-19 の影響、情報漏洩、製

品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等)の開示が十分になされていること」は、最も高い評価となった。これに関連して、定量的な開示内容を状況に応じて適宜充実させている点を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 T I S (高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 83.1 点〔昨年度比-0.8 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位(100%)、経営陣の IR 姿勢等(81%)、ESG 関連(81%)が第2位、自主的情報開示が同得点第2位(77%)、説明会等が第3位(74%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第2位となった。これに関連して、「事業説明会(サステナビリティ経営)」を評価する声が多く寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者とは有益なディスカッションができること」が共に、第3位となった。これらに関連して、経営トップによる経営戦略等のメッセージが明快である、戦略説明が有益であるとの声が寄せられた。なお、成長戦略に関する一層の説明を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が、同得点第3位となった。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が、同得点第4位となった。これらに関連して、開示資料の内容は質が高いと評価する声があるとともに、成長戦略上重要なビジネスに関しての継続的なアップデートを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明していること」(第2位)が高い評価となり、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)を、十分に説明していること」(第3位)も評価された。また、「非財務情報(ESG 情報、統合報告書等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が第4位となった。非財務情報の開示として、統合報告書を評価する声が多く寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生、COVID-19の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等)の開示が十分になされていること」は、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善し、同得点第2位となった。

同社は、3回連続して第2位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 伊藤忠テクノソリューションズ (総合評価点 79.5 点〔昨年度比-2.2 点〕、昨年度第3位)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位(100%)、自主的情報開示が同得点第2位(77%)、経営陣の IR 姿勢等が第3位(77%)、ESG 関連が第4位(71%)、説明会等が同得点第4位(74%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第3位となった。また、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者とは有益なディスカッションができること」が共に、第6位となった。これらに関連して、数値目標の背景等を経営トップ自らが説明し説得力があること、事業説明会や勉強会等コミュニケーションの機会が多いことを評価する声があった。また、セグメント別の開示内容が優れている、IR 担当者の対応が迅速との声もあった。なお、事業説明会における、各部門の定量目標等の説明の充実を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（第3位）および「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第5位）が共に、昨年度に比べ得点率をやや下げた。これらに関連して、分析に必要な実績データは概ね開示されているが、会社ガイダンスにおけるセグメント毎の業績見通しが他社に比べて不十分との声や、情報通信事業の競争環境に関する一層の情報を望むとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に、満点評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明していること」および「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が共に、第5位となった。また、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）を、十分に説明していること」が、同得点第6位となった。非財務情報の開示として、統合レポートを評価する声が多く寄せられた。なお、従業員エンゲージメントなど人的資本に関する開示内容の充実を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、COVID-19の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第2位となった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	91.9	27.9	1	16.9	1	20.0	1	22.1	1	5.0	1	1
2	3626 TIS	83.1	24.3	2	14.8	3	20.0	1	19.4	2	4.6	2	2
3	4739 伊藤忠テクノソリューションズ	79.5	23.2	3	14.7	4	20.0	1	17.0	4	4.6	2	3
4	7518 ネットアンシムシステムズ	78.0	20.9	5	15.1	2	20.0	1	17.7	3	4.3	8	5
5	9613 エヌ・ティ・エイ・データ	77.4	22.7	4	13.7	9	20.0	1	16.7	7	4.3	8	6
6	9719 SCSK	75.2	19.0	7	14.7	4	20.0	1	16.9	5	4.6	2	4
7	8056 BIPROGY	72.0	17.3	10	13.8	8	20.0	1	16.8	6	4.1	10	7
8	2327 日鉄ソリューションズ	70.3	20.1	6	13.6	10	20.0	1	12.1	8	4.5	5	8
9	4704 トレンドマイクロ	68.3	18.3	8	14.4	6	20.0	1	11.1	11	4.5	5	9
10	4733 オービックビジネスコンサルティング	53.3	18.2	9	14.3	7	5.0	11	11.4	9	4.4	7	13
11	4716 日本オラクル	50.1	10.5	13	9.0	13	20.0	1	6.9	13	3.7	13	10
11	4768 大塚商会	50.1	17.1	11	12.9	12	5.0	11	11.3	10	3.8	11	11
13	4684 オービック	49.0	16.7	12	13.5	11	5.0	11	10.0	12	3.8	11	12
	評価対象企業評価平均点	69.10	19.71		13.96		16.54		14.57		4.32		

2022年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	10
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（20点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。【終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点】	15
(2)外国人投資家向け情報提供	
・外国人投資家向けのIR活動（海外IR・英文による情報提供）に努めていますか。【海外IR・英文による情報提供あり：5点 海外IRのみ：3点 英文による情報提供のみ：3点 なし：0点】	5
4. ESGに関連する情報の開示（24点）	配点
(1)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）が、十分に説明されていますか。	7
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（ESG情報、統合報告書等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・その内容等をコメント欄に記入して下さい】	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、COVID-19の影響、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	6

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部会長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（24名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
上野 真	大和証券	千葉 馨	JP モルガン証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	前田 俊明	QUICK
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
小林 亮	みずほ証券	吉林 拓馬	東海東京調査センター
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。